

ら、韓国は計画を表に出すこともありませんでした。では、民主党政権はどう反応するか。それをうかがうために、アドバルーンを掲げたわけです。

すると当時の鳩山総理、岡田外相は、抗議しないどころか「竹島について『不法占拠』という言葉を使わない」とまで言い切ったのです。私は衆議院の外務委員会で、岡田外相に「外務省は不法占拠だと言っている。あなたはどう思っているのか」と再三問いかけましたが、かたくなに「不法占拠」という言葉を使いませんでした。これは韓国側に完全に誤ったメッセージを送ることになってしまったのです。

そしてさらに民主党政権は、一〇年九月の尖閣沖・中国漁船衝突事件の際に、犯人である中国人船長を釈放しチャーター機で送り返す、とい

う信じられない対応をしたんです。

韓国政府はこれを見て自信を持ったでしょう。一一年三月の東日本大震災直後に、それまで日本の出方を見るために控えていたヘリポート改修工事に着工し、地上十五階建て相当の巨大施設である海洋科学基地の発注、着工を行いました。

山本 このヘリポート改修予算の動議では、「竹島近辺で偶発的武力衝突が万が一起こった場合、即対応できるため」として予算が認められました。が、「衝突」する相手は誰かと言えば、他でもない、日本を指しているんです。にもかかわらず、日本側には当事者意識のかけらもありませんね。

民主党政権の致命的欠陥

新藤 そのとおりです。しかも、改修前は昼間のみ、二十人乗りのヘリ

が二十分しか駐機できなかったのですが、改修後は軍隊一個小隊分を運べる四十人乗りのCH-47・チヌークが、二十四時間・離発着可能のものになっています。

さらに付け加えれば、ロシアも一〇年七月には中国と「歴史共同宣言」を出し、「北方領土は日本との戦争によって得た成果である」と発表するようになりまし。十一月には戦後はじめて、メドベージェフ大統領が北方領土へ上陸。一一年二月には、「中韓など第三国の北方領土への投資を歓迎する」と発表したのです。

みな、民主党政権の「弱腰外交」をチャンスと見て一斉に日本に攻勢をかけており、いま現在もいつ次の段階の具体的行動を起こそうかと狙っている状態なのです。

山本 鳩山総理はかつて、「日本列島は日本人だけのものではない」と発言

しました。その態度が誤ったメッセージとして伝わり、他国を安心させ、一気に攻勢をかける踏み切り板になったでしょう。特に、中国にとつて尖閣諸島は対米戦略の要所であり、経済の要所でもあります。

新藤 中国から見た日本は、まるで太平洋への出口へ覆い被さるかのよう位置しています。唯一、沖縄と宮古島の間だけが、自由な航行の認められるスペースになっています。

このとば口にあるのが東シナ海ガス田であり、尖閣諸島なのです。ここを抑えて自由な制海権を得たいというのが、中国の野望なのです。

日本の貿易量の九九%が海上交通であるように、シーレーンの確保は国の死活問題です。沖縄本島と宮古島間は日本の排他的経済水域ですが、他国の船であっても通行の自由は認められています。中国は日本と

航行の連絡ルートを作り、安全と信頼のルールさえ守ってくればいい。しかし、覇権主義に駆られた中国は武力で脅かして押しつけるようなやり方をする。それに対して、日本は頭を下げるのでしょうか。

民主党政権の致命的欠陥は、日本は国家としてこの海を管理していく意思が弱い、ということの世界に自ら示してしまっていることなのです。

この問題は領土にとどまりません。自分の国の大事なものを守るための行動ができない国は、他国が困った時に手を差し伸べることもできません。日本の信用がかかっているんです。国民の安全と領土の保全、国家主権の確立という国家成立の三要素を守れない国は、他国から相手にされません。となれば、どんな経済交渉でも相手にされなくなる。

「日本は強く言えば折れる。都合が

悪くなれば逃げる」と思われてしまつたら、国と国との真剣な国益追求の場となる国際交渉で、日本の主張が受け容れられるわけがありません。**山本** 国家としての「信用と信頼」にかかわる問題ですね。

名実ともにわが国の領土

新藤 はい。第一、尖閣諸島はそもそも領土紛争もへつたくれもない、名実ともにわが国の領土なのです。爾々と施設を建て、漁業を行うべきです。そのために、とくに無効になっている「棚上げ」の政治合意を改める。自民党が合意した政治約束ですから、自民党の責任で方針転換しなければならぬと考えています。

尖閣をこのままにしておけば、中国はさらに強硬な手段に出ます。南シナ海を見ればわかるでしょう。中国船が故障し、偶然、打ち上げられ

た、などといって尖閣に上陸した時に、日本の警察が中国人を排除できるのか。中国人保護のためと言って漁業監視船や軍艦が出てきた時に、日本は実効的手段がとれるのか。そうなる前に未然に防がなければならぬ。まさに時間との闘いなのです。

山本 尖閣同様、あるいはそれ以上に頭の痛い領土問題が竹島です。昨年八月一日、新藤先生らが鬱陵島へ行こうとしましたが、韓国政府から入国拒否される事態となりました。

新藤 韓国は不法占拠にもかかわらず、着々と既成事実作りを行ってきました。韓国がそこまでの行動に出る根拠があるならば見せてもらおう、主張を聞かせてもらおうということで私は視察することにしたのです。といっても、そんなものはないのですが……。

山本 韓国政府は、正当なルートで

入国しようとした友好国の国会議員をテロリスト扱いしました。これによって、韓国は長期的に見れば国際社会における信用と国益を著しく失ったことはたしかです。しかし、日本政府としては抗議すべきでしょう。

新藤 官房長官、外務大臣が外交的に対処してくれましたが、形だけです。私は「入国拒否の根拠、法解釈を示してくれ。今後、私がブライベートやその他の政治目的で韓国へ行くときも拒否するのか」と問い合わせましたが、韓国側からは一切、返答がありません。というか、根拠がないからできないんです。

独島化の布石

山本 私は、先生たちが入国拒否された三日後に韓国に入りました。鬱陵島まで行く船は「日本人は乗船拒否」と言われたのですが、浦項など大

きな港は避けて、小さな港から出航する船で向かうことにした。海洋警察からいろいろと探りを入れられましたが、これまでに何度も竹島に行っていますので、言い逃れの方法はよく知っています(笑)。

鬱陵島に入った途端に、新藤先生の顔に大きなバツ印がつけられた写真がデカデカと飾ってありましたよ。他にもスローガンなどが張られていました。島そのものは平穏で静かでした。やはりあの騒動は、ごく一部の人たちや団体などが恣意的に起こしたと感じました。竹島へは鬱陵島の道洞港からの観光船に乗り、約二時間の航海で、上陸したのは八月五日でした。

この日、四十名が住める島民宿舎の竣工式典が行われていたこともあったのですが、〇七年頃に上陸した頃とは打って変わって、まるで

テーマパークのような雰囲気でした。幼い子供連れの夫婦や、若い女性でにぎわっていて、「武力で制圧した島」というこれまでの物々しい雰囲気から一転、リゾート地のような印象を受けました。

また、竹島の遊歩道なんかには「イサブ通り」や「アン・ヨンボク通り」という名前までつけられていたのが驚きました。「不法占拠」に自信を持ち、独島を強めることで国際裁判への布石を打っているのだと、焦りすら感じました。

竹島をリゾート化

新藤 その名前も、竹島とは何の縁もゆかりもない、全くのでたらめなものなのです。イサブという人は鬱陵島の支配者ではありませんが、竹島に行った記録はありません。またアン・ヨンボクは、当時、朝鮮が渡

島を禁じていた鬱陵島に密航し、日本側に捕まって送り返された漁師であり罪人なのに、なぜか「日本人漁師を追い払った將軍」とされています。

独島博物館にはジオラマがあるのですが、追っ払われている漁師には武士のようなちゃんまげがある。漁師はちゃんまげなんかしていませんよ(笑)。

韓国のやりたい放題の現状に疑問を持ったからこそ、鬱陵島の視察を行ったかった。それで入国拒否されたわけですが、私たちの行動には大きな意味があったと思います。

金浦国際空港でカメラを向けられて、「竹島はこの領土ですか」と聞かれたので「竹島は日本の領土です。しかし日韓の間に意見の違いがあるので、協議しなければなりません」と答えました。これが韓国全土で放送された。日本の公の人間が韓国本土

で「竹島は日本領土」と言ったのはじめての出来事だったと、のちに聞かされました。

しかも私たちは悪びれもせず、声を荒げるわけでもなく、平然々と行動しました。ビビンバを食べ、お土産に韓国のりを持って帰った。

私が帰ったあとの韓国内の報道で、「このユーモアと余裕は一体何だ。主張に自信があるようだが、日本側の言い分を韓国民は何も知らされていない」「日韓の間に領土問題は存在しなかったのではないか」という記事が出たそうです。

韓国政府側も、「あまり強硬なことをやって刺激しては、日本が再び行動に出てくるのではないか」と警戒したのでしよう。以降、八月十四、十五日に予定されていた、与野党国会議員による上陸は中止。予定されていた音楽会やフアッションショーも

中止、さらに十月いっぱいまで、韓国の大臣や国会議員は誰も竹島に上陸していません。

しかしその「自衛」を破り、再度実効支配をエスカレートさせるきっかけとなったのは、野田総理の外交でした。十月十八、十九日にソウルを訪問し、日韓首脳会談を行いました。その際に、野田総理は竹島の「た」の

字も出さなかった。さらに、「日韓懸案の問題は、野田総理が積極的に解決努力するように」と李明博大統領に言われ、何も言い返しませんでした。

この訪韓後の十月二十七日、韓国政府は、竹島棧橋付近に新たな管理施設の建設を許可したと発表。翌二十八日にはファッションショーが開催されたのです。そして十一月十一

日には、日本政府の事前の中止要請を無視し、主催者の国会議員五人が竹島に上陸し、はじめての音楽コンサートが開催されました。

さらに十一月二十一日には、竹島新棧橋の実施設計入札が行われました。現在は三百トンの船が二十分ほどしか停泊できない棧橋が、五千トン級の船が常時停泊できるほどの巨大棧橋に改修される計画です。

韓国はまさに竹島を「リゾート化」して国際的に発信し、実効支配をさらに強化・既成事実化するため、これまでの日本への配慮をやめ、闇雲に動きはじめているのです。

また、軍事的には鬱陵島に新しい海軍基地を建設し、イージス艦を配備しようとしており、飛行場の建設計画もある。その理由は、「船では韓国本土から竹島へ行くよりも、日本の隠岐の島からのほうが早く着いて

竹島をめぐる日韓の動き

2011年8月1日 日本国会議員入国拒否

8月1日以降、韓国官僚、国会議員等、国関係者の上陸なし

- ・8月12日 竹島での韓国領土守護特別委員会
- ・8月14日 ハンナラ党代表による竹島訪問
- ・8月15日 民主党代表による竹島訪問
→天候不良により中止

その他

- ・8月10日 ファッションショー 天候不良のため島へ上陸せず
- ・9月3日・10月15日 音楽会を企画 天候不良のため中止

10月18・19日 野田首相訪韓

＜問題点＞

- ・不法占拠強化活動への抗議、工事計画中止申し入れは
おろが、竹島問題に一言も触れず
- ・順番前倒して訪韓実施
- ・朝鮮王朝儀軌返還、感謝の言葉すらなし

10月21日 竹島新現場管理事務所の建設計画決定

10月28日 竹島ファッションショー開催

11月21日 竹島・新防波堤計画の実施設計入札

日本側の報道：駐韓日本大使が抗議。計画中止申し入れ
→韓国外交部バク第一次官へ
外務省発表：バク次官「現時点で何ら決定していない」

韓国側報道：「日本が関与する問題ではない」
→韓国外交部第一次官コメント

しまう。だから、鬱陵島に軍事基地を展開しなければならない」ということが国会で説明されているんです。

山本 これだけ具体的な行動に出ているのに、なんらの対応もとらない日本政府にはあきれるばかりです。

日本も世界に発信を！

新藤 我々がある意味で韓国に見習わなければならぬのは、実効支配を着々と進め、リゾート化して一般人にも使わせる一方で、国際世論を味方につける活動にも余念がないことです。ロサンゼルス的高速道路脇に「独島は韓国領土」という巨大な看板を建てたり、アメリカでCMを流したりしていますが、これは元をたどると、韓国政府関連機関の資金にたどり着くといわれています。

そして我々が竹島問題の抗議を強めると、「日本は韓国にそんな難癖を

つけられる立場なのか。謝るべき相手だろう」と言うために、慰安婦問題を持ち出してくる。

ニュージャージー州では、在米韓国人が州の日本人学校の公民教科書に対し、「竹島の記述がある」として教科書使用差し止めの行政訴訟を行い、日本人学校への補助金を止めるというロビー活動まで行っています。

かたや日本は、韓国に形だけの「抗議」をするだけで、世界に対しては何も発信していません。国家の戦略として、歴史研究の成果と日本の思いを世界に広める必要があると思います。

それに事態が進めば進むほど、お互いが受ける傷も深くなる。中国や韓国の国民も、いずれ真実を知れば悲しい目に遭うでしょう。そのような事態になることは、私はたとえ他国の人であっても、気の毒なことだ

と思います。

日本は本年、主権回復六十年目を迎えました。そしていま、民主党政権のおかげで、「油断すればあつという間に周囲から攻められる」国際環境にある、ということが分かったのです。こうした事態を領土や国家主権問題に対して日本が方針を切り替えられるチャンスと考え、いままどうやむやにしてきた国家の基本問題に正面から取り組み、戦後体制のくびきを解き放つべきだと思います。

「我々は法と正義と歴史事実に基づいて行動します。国民・領土・国家主権は何があっても守ります」という、「国家の覚悟」を示す絶好の機会ではないでしょうか。

山本 約二十年前から国境の島の危険を案じていましたが、やっと本気で行動する国会議員が出てきたことを実感しました。